

Title	目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	2017
Jtitle	法學研究：法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.90, No.1 (2017. 1) ,p.ix- xii
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	有末賢教授退職記念号
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-20170128--008

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

目次

目次

序	岩谷十郎	v
戦後日本の大衆社会論とマス・コミュニケーション論・再考	大石裕	一
アンソニー・ギデنزの社会理論における不安とリスク	澤井敦	二七
ジャーナリズムと社会的意味	烏谷昌幸	四九
——「リアリティ」の社会学の視座から——		
止まった時計	浜日出夫	七五
近世農民世帯の構成と戸主のライフコース		
——陸奥国安達郡南杉田村の人別改帳を用いて——	岡田あい	九一

アートベース・リサーチ —— なぞる／癒す／パフォーマンズ ——	岡原正幸	二九
コールハース、ズーキン、そしてベンヤミン —— 都市批評の現在の困難を超えて ——	近森高明	一四九
蔵内数太の生涯と教育社会学	竹村英樹	一七五
現代の地域社会、企業、個人の揺らぎ	石田幸生	二〇五
被災地ローカル各紙統合スクラップ帳の意義と課題 —— 復興ロジックの探索・再構築に向けて ——	大矢根 淳	二三九
ライフヒストリー研究法から家族研究への示唆 —— 政治性の観点から ——	藤間公太	二六一
過去の災害被災地に学ぶ —— 福岡県西方沖地震の玄界島と長野県北部地震の栄村小滝区の復興過程 ——	中野紀和	二八三

日本統治下台湾の「国語講習所」(一九三〇―四五)の講師に関する一考察 ――講師の履歴を中心に――	藤森 智子	三〇七
熊本地震におけるデジタル・ネットワークワーキングの展開	干川 剛史	三二一
日本における環境社会学の勃興と「制度化」 ――ひとつの試論――	堀川 三郎	三七九
平和都市の形成と変容 ――被爆都市広島の復興過程とシンボルの役割――	松尾 浩一郎	四〇七
ブルデューのパノフスキー受容と社会学的展開 ――美術史研究を反省的社会学に継承する「手法」――	三浦 直子	四三三
日本の自分史実践における「第二の生産者」と自己反省的言説	小林 多寿子	四九四
成育家庭の経済水準が子どもの地位におよぼす影響	鹿又 伸夫	五二六

Between Liberation and Neglect: "Community-based" Approaches and Neoliberalism in Policies for Asylum Seekers in Australia	SHIOBARA, Yoshikazu...	五四〇
---	------------------------	-----

有末賢教授略歴・主要業績	四五五
--------------------	-----